

広島大学平和センター CPHU NEWSLETTER 2019

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89
TEL: 082-542-6975 FAX: 082-245-0585
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp
Website: <https://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa>



ご挨拶

二期目の抱負

“Only One”で“No. 1”の研究・教育施設を目指して

広島大学平和センター長
川野 徳幸



2019年4月1日より、平和センター長の二期目を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

平和センターは、2018年4月1日、平和に関する教育・研究において、これまで以上に学内外で「中心的役割」、まさに「センター」を担えるよう機能強化を図ることが認められ、名称変更し、存続期限を定めない施設となりました。今後も被ばく地「ヒロシマ」を意識しつつ、原爆・被ばく研究、核をめぐる国際関係の研究、平和構築研究、構造的暴力などを包む学際的な平和研究・平和教育拠点を目指します。そのために、国際シンポジウム、研究会、紀要等を通し、研究成果の積極的な発信をしていきます。

教育面では、大学院国際協力研究科などでの講義・ゼミ、教養教育「平和科目」の主体的な企画・運営などを引き続き担当します。また、本年度より開始される大学院共通科目「持続可能な発展科目」における平和科目も新たに担当します。それらにとどまらず、学内で展開する「平和」に関する教育プログラムにも主体的に参画します。

研究面では、「ヒロシマ平和研究」領域、「グローバル平和研究」領域の2つの研究領域を確立します。そのために、学内に散在する平和研究、平和教育の研究者との連携体制、並びに国内外の平和関連機関との協力体制を強化します。学内では、国際協力研究科平和共生講座、教育本部平和教育部門の研究者と強固に連携し、かつ、国内外では、国連訓練調査研究所（UNITAR）広島事務所、ノルウェー・オスロ国際平和研究所（PRIO）、英国シェフィールド、グラスゴー、バーミンガム大学、オランダ・アムステルダム大学、ソウル

国立大学、南京大学和平研究所、広島市立大学広島平和研究所、広島平和記念資料館などの連携を深化させます。そのほかにも、東千田理学部一号館跡地の保存・活用に関する企画立案にも積極的に参画していきます。

人事では吉報がありました。弊センター機能強化の一環として、2019年4月、van der DOES Luli（ファンデルドゥース・ルリ）先生を准教授としてお迎えすることができました。先生には、2017年5月より約2年間、平和センターにてJSPS外国人特別研究員として大いにご活躍いただきましたが、今後も言説分析を通じた原爆被爆被害研究の深化、平和センターの諸活動への貢献、そして広島大学における平和教育への主体的な参画など大いに期待しています。また、2019年3月末には、教育・研究活動にご尽力いただいた小倉亜紗美助教が5年の任期を終え、同年4月から呉工業高等専門学校に講師として着任されました。あふれるバイタリティで今後とも活躍されることと思います。

片柳真理大学院国際協力研究科教授には、引き続き、副センター長を兼務いただきます。ご多忙な先生にお願いするのも憚られるところですが、平和センターの研究力強化のため、無理を承知でお願いした次第です。今後ともセンター教職員のご指導をお願いしたいと思います。

令和元年となる2019年も平和センターは、教職員一丸となって平和研究・平和教育に取り組みます。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2018 年度のセンターの活動

シンポジウム

●2018 年度広島大学平和センター記念国際シンポジウム

「ヒロシマの平和、そして世界の平和ー過去・現在・未来への展望」（2018 年 8 月 2 日、広島大学東千田キャンパスにて開催。参加者約 100 名。）

シンポジウムでは、世界平和に関わるさまざまな問題に対する、ヒロシマの役割について、国内外の多様な分野で活躍する研究者を一同に会して、活発な議論が行われた。

<講演・パネルディスカッション>

竹峰誠一郎（明星大学・准教授）

「ヒロシマとマーシャル諸島を結ぶーグローバルヒパクシャの視点から」

福井康人（広島市立大学准教授）

「核兵器禁止条約と今後の課題」

Camilo Alberto Borrero Garcia（コロンビア国立大学教授）

「コロンビアにおける平和構築の成果と課題」

片柳真理（広島大学平和センター副センター長/広島大学大学院国際協力研究科副研究科長）

「ビジネスを通じた平和構築」



パネルディスカッションの様子

特別講演会

●2018 年度広島大学平和センター特別講演会

「核兵器禁止条約の意義ーこれからのヒロシマ、そして日本の役割」（2018 年 8 月 6 日、広島大学東千田キャンパスにて開催。参加者約 100 名。）

ピースポート代表/核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）国際運営委員の川崎哲氏をお迎えし、2018 年度広島大学平和センター特別講演会「核兵器禁止条約の意義ーこれからのヒロシマ、そして日本の役割」を開催した。核兵器禁止条約が採択されるまでの経緯やこれからの課題について講演いただいた。質疑応答では参加者からの鋭い質問もあり、意義深い講演会となった。



川崎氏講演の様子

市民公開講座

●2018 年度市民公開講座

「被爆体験を「生きる力」へ テーマ 5 選」

（2019 年 3 月 2 日、広島平和記念資料館にて開催。参加者約 160 名。）* 広島平和記念資料館共催

74 年の歩みの中で、「広島」は被爆都市「ヒロシマ」となり、反核と平和を象徴する世界の「HIROSHIMA」へと発展を遂げた。その途上で、被爆の実態と被爆体験から、市民は様々な「知識」を紡ぎ、辛い「経験」を復興と平和のための意思決定に役立て、世界平和希求の理念へと昇華してきた。都市と社会の構築、医療や福祉の発展、核軍縮と平和への取り組みなど様々な分野に、被爆体験の継承がどう貢献し、どんな社会影響を与えてきたのか。この講座では、5 つのテーマ・視点から、この問いかけについて活発な議論を展開した。

<講演・パネルディスカッション>

講演 1：川野徳幸（広島大学平和センター長・教授）

「被爆体験から学び、継承するもの」

講演 2：原田浩徳（東京薬科大学生命科学部教授）

「原爆後障害と血液がんー骨髄異形成症候群とは」

講演 3：冨塚明（長崎大学水産・環境科学総合研究科准教授）

「国際的な潮流に逆行する核兵器近代化計画」

講演4：Luli van der DOES

(JSPS 外国人特別研究員)

「平和都市アイデンティティの力」

講演3：志賀賢治（広島平和記念資料館館長）

「平和記念資料館の使命と今後のあり方」



市民公開講座の様子

研究会

●第216回研究会（2018年6月15日）

西田貴明（三菱UFJリサーチ&コンサルティング副主任研究員/徳島大学環境防災研究センター客員准教授）「人口減少時代の自然環境保全：国内外のグリーンインフラへの期待」

●第217回研究会（2018年10月5日）

“The U. K, Nuclear Legacy”

William James Nuttall (Professor, The Open University)

“British and the Bomb”

Shinsuke Tomotsugu (Associate Professor, Hiroshima University) “British Atoms for Peace Overseas”

●第218回研究会（2018年10月23日）*第401回IDECセミナーと共催

土屋由香（京都大学教授）“Japanese Deepsea Tuna Fishing After the Lucky Dragon: Attitude of the Japanese Government, Ship-owners, and Fishermen toward the Test-Ban Movement”

●第219回研究会（2018年11月22日）

黒木英充（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）「シリア内戦と「対テロ戦争」」

●第220回研究会（2019年2月4日）

西田恒夫（広島大学学長特命補佐・平和センター名誉センター長/元国連大使）「2019年：迷走する世界と日本」

コメンテーター・隈元美穂子（UNITAR広島事務所長）

●第221回研究会（2019年3月1日）*第409回IDECセミナーと共催

照井亮(E-JUST客員講師) “Visual Storyboarding Tools for Public Engagement and Special Justice”

●第222回研究会（2019年3月15日）

西田隆行（成蹊大学教授）「アメリカの政治社会の分断と社会契約の喪失」

討論者：向井洋子（熊本学園大学准教授）

センター共催・後援・企画のシンポジウム、研究会等

●2018年11月6日（後援）

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B)「放射線影響研究と防護基準策定に関する科学史的研究」（研究代表者－柿原泰・東京海洋大学准教授）セミナー “The Diplomacy of Nuclear Safety and Radiation Dosimetry” - Maria Rentetzi 先生を囲んでー

●2018年12月15日（共催）

広島大学学長特命補佐 大島賢三氏 公開市民講座

「世界の人権・人道問題についてーロヒンギャ難民問題 その他ー」

●2019年2月23日（共催）

文化庁、公益社団法人広島交響楽協会主催ワークショップ
「“Music for Peace”～音楽と平和について考えるワークショップ～音楽を通じた平和発信」

●2019年2月28日（企画）

第89回広島大学講演会「JICAの目指すもの」

北岡伸一 JICA 理事長/東京大学名誉教授

出版物

●『広島平和科学』（第40号、2019年3月）

●研究報告シリーズ（和文）

No.56 川野徳幸（編著）

『チェルノブイリ・旧プリピャチ住民へのインタビュー記録
(第二報)』(2018年9月刊行)

No.57 広島大学平和センター編 責任編集:友次晋介・小倉
亜紗美

『2018年度広島大学平和センター記念国際シンポジウム
ヒロシマの平和、そして世界の平和ー過去・現在・未来への
展望』(2019年3月刊行)

●研究報告シリーズ(英文)

No.33 Chief Editor: Luli van der DOES

1st International symposium 2017 hosted by Institute for
Peace Science, Hiroshima University “The Atomic Bombs
and War Memories: Heritage of Peace in an Uncertain Age”
(2018年6月刊行)

社会貢献など

●福島県立福島高等学校などへの平和学習 7件

●新聞、雑誌等メディアでの有識者コメント 13件

●政治社会学会副理事長、読売新聞被爆73年被爆者意識調
査(共同事業)、NGO ヒロシマ・セミパラチンスク・プロ
ジェクト顧問、ひろしま平和研究・教育機関ネットワーク委
員、Editorial Board Member of *RADIATION MEDICINE*,
ECOLOGY AND REHABILITATOLOGY、公益財団法人広島
平和文化センター理事、エジプト日本科学技術大学
(E-JUST) プロジェクトフェーズ2 国内支援委員会専門
部会国際ビジネス・人文学ワーキング・グループ委員、平和
宣言に関する懇談会委員(広島市)、平和に係る教育・研究
の導入機能等に関する検討会委員・座長(広島市)、日本原
子力研究開発機構核不拡散政策研究委員会委員、NPO 法人
瀬戸内里海振興会理事、西条・山と水の環境機構運営委員、
エコネットひがしひろしま副会長、東広島市農業委員会委員
など

2018年度外部資金等受入状況

科学研究費補助金(代表)

●研究代表者:川野徳幸

平成27-30年度科学研究費補助金基盤研究(B)

『被ばく被害の国際比較研究:セミパラチンスク、チェルノ
ブイリ、広島・長崎、福島』

補助金額:1,290万円(平成27-30年度直接経費総額)

*その他、分担3件

●研究代表者:友次晋介

平成28-30年度科学研究費 基盤研究(C)

『コモンウェルス・勢力圏におけるイギリスの「平和のため
の原子力」協力』

補助金額:260万円(平成28-30年度直接経費総額)

*その他、分担2件

van der DOES, Luli 准教授着任のご挨拶

この度、2019年4月1日付で広島大学
平和センター准教授に着任致しました
ファンデルドゥース 准教授です。専門は
社会科学・応用言語学。目下、国際的戦
争記憶の構築と参加型継承、および原爆
体験の言説・表象とアイデンティティ変
遷の研究に従事しています。被ばくと平和学の分野において
比類ない平和センターで、教育と研究に参画する機会を与え
られ、心より感謝いたします。広島からヒロシマへ、そして
HIROSHIMA へと変遷する中で培われた「被爆の実相・普
遍的平和の希求・復興と持続の生きる力」。この三つは、広
島の記憶であり、アイデンティティであり、持続的活動力の
源だと考えます。そこに根本的な「いのちのメッセージ」の
力を見出します。これを言語文化や世代・国境を超えて発信
し、継承していくべく最善を尽くします。どうぞご指導・ご
支援いただけますよう、宜しく願いいたします。



略歴:英国国立エディンバラ大学応用言語学研究所教員、英
国国立ケンブリッジ大学応用言語学部 Chevening 研究員、
英国国立シェフィールド大学社会科学院東洋学部講師、広島
大学平和センター客員研究員(日本学術振興会外国人特別研
究員)等を歴任。共著に *Excavating the Power of Memory in
Japan* (Routledge 2016年)、*Environmental Pollution and
the Media: Political Discourses of Risk and Responsibility in
Australia, China, and Japan* (Routledge 2017年)など。

<訃報> 弊センター顧問の岡本三夫先生が、令和元年7月
20日に、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上
げます。